

子育て支援員（仮称）研修制度に関する検討会 第2回専門研修WT（地域子育て支援）	資料 2-2
平成26年11月12日	

地域子育て支援におけるプログラムとは

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

奥山千鶴子

当初、おやこの広場びーのびーのを立ち上げたとき、カナダの子育て支援を学び子育て支援の場作り、プログラム作りを参考にしました。そこで、言われるプログラムとは、意図(目的)を持った構造的な一連の働きかけであり学習なのだと理解しました。

重要なのは、子育てひろばの現状に合わせて、意図的なプログラムを作ることです。

そのプロセスは、以下のような流れです。

1. ひろばでの課題を把握する

(例) 食物アレルギーのことを心配する親が増えたが、アレルギーのない子どもの親にとっては関心が深められず、お弁当の時間に何気なく他のお子さんに食べさせてしまう様子がみられる。

2. どのようなプログラム作りが必要か検討する

- ・食物アレルギーに関心のない人も参加できる
- ・食物アレルギーをもつ子どもの現状を知る、どのように危険かを知る
- ・アレルギーの有無にかかわらず参加できること
- ・アレルギーをもつお子さんの親が居心地悪くないように
- ・リラックスして参加できるもの
- ・専門性が高すぎず理解しやすいもの

3. 具体的なプログラム作り

- ・実施場所、日時、人数、募集方法
- ・講師（依頼、謝金、内容事前打ち合わせ）
- ・保育
- ・参加費
- ・アレルギーのある子どもの先輩親（幼稚園や小学校での子どもの様子など話ができる方）
- ・ちらしや通信での募集
- ・通信等での報告、参加ママの感想

4. プログラムの実際

オープニング

講師のおはなし

グループワーク

食事のときに気になること、講師の話をうけて学んだこと

グループ発表

講師や先輩親との意見交換

ティータイム

まとめ、次回の予告（アレルギーの配慮したおやつ作り）

アンケート

5. アンケート結果から検証・評価、共有

- ・アレルギーへの配慮に対して理解が進んだか
- ・親同士の気づきは得られたか
- ・リラックスして参加できたか
- ・やり残し、うまくいかなかったことの振り返り
- ・通信等への報告、参加者の感想を載せる等でひろば利用者への共有と啓発

子育てひろばで行われていることは、すべて意図を持って実施されていなくてはならないと思っています。

カナダのドロップインセンター（子育てひろば、いつでも気軽に立ち寄れる場）では、子育て家庭に向けてのさまざまな支援プログラムは、つまるところ親の養育力を高めることがねらいだと言っています。いわゆる「エンパワーメント」です。

「赤ちゃんが家にやってきた」プログラム

「自分で離乳食をつくろう」プログラム

「完璧な人なんていない」プログラム

もちろん、気軽な季節の行事などやリクリエーションプログラムもある程度意図を持って実施しているものと思います。しかし、そこには、子育て期の不安や孤立を乗り越えられるよう、親同士の出会いと仲間作りを促進するという意図が必要です。

したがって敢えてお楽しみプログラムをいれず、その場にあつまった親子の状況に合わせて、ゆったりと過ごす「ノンプログラム」という考え方も紹介されました。意図をもったノンプログラムでなければなりません。ただ見守っていますではなく、一期一会であるその日集まったメンバー構成に配慮しながら、参加者同士のつながりを生んでいくという非常にスタッフの力量をためされるプログラムといってもいいものです。

お楽しみプログラムが高じると、もっと楽しいことをやってください。今度は何をやってくれるんですか？となります。親を巻き込みながら、親同士がつながれるような意図的なプログラム作りが求められる所以です。

「Working for the family」ではなく、「Working with the family」

地域支援との関係では、すでに当時から以下のように考えられていました。

「子育て家庭を支援するということは、地域から生まれ地域のために取り組まれ、そして結果的に個々の家庭の養育力を高めつつ、地域社会としての育児力を高めていくものである」

親の力や子育て支援に取り組む多くの草の根のネットワークの力を活用して、子育てしやすい地域社会をつくるのが、最終的な子育て支援の目標となっています。